

Rikkyo Club of Executives & Professionals 立教経済人クラブ

発行所：立教経済人クラブ 発行人：和田成史 編集人：徳澄範光 事務局：TEL.03-3985-3135 <http://www.r-keizaijin.net/>

第34回定期総会



平成26年5月29日(木)午後5時30分より、毎年恒例となる「立教経済人クラブ第34回定期総会」が日比谷松本楼にて開催されました。

総会は第1部の定期総会、第2部の講演会、第3部の懇親会の三部構成で行われました。

第1部の定期総会は総務委員長の湯浅修氏(S59産・㈱ブレン代表取締役社長)が司会者となり、総会に先立って、物故者の報告と黙とうを全員で行いました。その後、司会者が開会を宣言し、会則により議長に会長である和田成史氏(S50営・㈱オービックビジネスコンサルタント代表取締役社長)が指名され議事の審議に入りました。

1号議案の事業報告、3号議案の役員承認、4号議案の事業計画案、6号議案の会則変更の件は事務局長の井口一世氏(S53営・㈱井口一世代表取締役)より、2号議案の決算報告、5号議案の予算案は財務委員長の守屋裕之氏(S60営・ソニー生命保険㈱部長トップ・オブ・ザ・エグゼクティブライフプランナー)より、監査報告を監査委員長の北岡修一氏(S55営・東京メトロポリタン税理士法人統括代表社員)よりそれぞれ報告され、全ての議案について満場一致で承認されました。議事は終始円滑に行われ、総会は無事閉会しました。

引き続き午後6時より、第2部の講演会が開催されました。講師はNHK報道局社会番組部ディレクターの阿部博史氏をお招きし、「震災ビックデータ」というテーマで約1時間ご講演頂きました。東日本大震災の際の人々の行動が携帯電話やカーナビのGPSのデータを収集・分析することにより分かってきたこと、そうした分析結果を今

後災害が発生したときにどのように活かせるかという研究が行われていること等をお話頂きました。(講演内容については3頁にご紹介しております)

午後7時から第3部となる懇親会でした。新入会員7名を含め会員、ゲスト、立教学院糸魚川順理事長、立教大学吉岡知哉総長をはじめ、大学各部長・教授の方々、校友会関係では、木澤克之副会長、レディスクラブ松森眞理子会長、マスコミ立教会等各立教会の方々、立教新座中学高等学校からのご来賓を交えて開催されました。第1部に引き続き、湯浅修総務委員長の司会で開宴となりました。

まず、和田成史会長より開宴のご挨拶として、総会が無事に終了した報告とお礼、第2部の講演のテーマであったビックデータが新たなビジネスチャンスであり、マーケティングや防災の面でも非常に大きな可能性あること、また当年度は安倍内閣の成長戦略の成果が表れるかどうかの重要な年であり、ITと日本経済の成長が期待されることに触れられ、立教経済人クラブも更なる発展をしていきたいとご挨拶されました。

続いてご来賓を代表し、吉岡知哉立教大学総長より、立教大学が激動の時代に誕生し、そして今も激動の時代に新たな成長をしようとしていること、特に大学の国際化に力を入れており、グローバルな時代に生きていく人材を育てていくために海外からの留学生を積極的に受け入れると同時に、立教大学の学生も海外留学を増加させていくこと、そのための支援を卒業生の皆様に



も引き続き頂きたいのとご挨拶を頂きました。

さらに、糸魚川順立教学院理事長より、135周年記念「立教未来計画」募金において約47億円の寄付が集まったとのご報告があり、厳しい社会・経済状況の中で支援して頂いたことに対する御礼がありました。頂いた寄付は立教学院・各校の教育改革・環境整備などの母校の発展に使わせてもらう旨のご報告を、引き続き物心両面の支援・協力をお願いを含めてご挨拶を頂きました。

その後、来賓の方々のご紹介を司会者よりさせていただきます、さらに、新たに入会された7名の新入会員の紹介と記念撮影を行った後、木澤克之校友会副会長より乾杯のご発声を頂き懇親会がスタートしました。

久しぶりに拝見する母校の関係者、先輩、同友、後輩等との昔話や、新たにご挨拶をさせて頂いた諸先輩の皆様とお話している間に時間は過ぎていきました。松本楼の美味しい食事とお酒も頂きながら、大変楽しい時間を過ごせました。

—飯泉 斉 H10法—

2014年度第1回理事会

去る5月12日、昭和41年卒 当クラブ顧問の呉東富会員が経営される新橋亭において2014年度の第1回理事会が開催されました。

開会のご挨拶をいただいた和田会長からは、会員の活性化、特に若手や女性が入会したいと思えるような活力にあふれた会にしていきたい、その為の審議について活発なご意見をいただきたいとお言葉をいただきました。

それをうけ、2013年度各委員会事業報告と財務報告に関して、また2014/15年度役員(案)と2014年度事業計画並びに予算案の審議が行なわれ、各々総会資料として承認されました。また、会員拡大と活性化にあたり一部会則の変更案についても審議され、総会に諮られることとなりました。

今回は特に、立教学院創立135周年を契機として50億円を目標にスタートしました「立教未来計画」募金が本年3月末で終了するに当たり、目標金額に対し若干の不足であったことを受け追加募金をさせていただいた旨の報告がされました。理事各位による臨時書面理事会の決議を経て賛成多数であったことから2013年度予算より100万円を、3年前の募金と合わせ通算200万円の募金をさせていただくこととなりました。

続く懇親会では新橋亭の素晴らしいお料理に舌鼓を打ちつつ、会長以下出席して下さった顧問、副会長、理事、委員長の皆さんより、今後の運営委員会への要望、そして近況報告などについてお言葉を戴きました。

当日ご出席頂いた方々は以下の通りです。(敬称略)

- 会長 和田成史
 - 顧問 長谷川正二郎、鈴木紀子、田村憲郎、倉石昇、谷田権、吉見善夫、中島一彰、呉東富
 - 監査委員長 北岡修一
 - 副会長 上原洋一、伊藤守、梅田憲司、戸井田和彦
 - 理事 中島淑夫、富澤麻利子、戸張則博、杉本隆洋、中島弘人、大屋高志
 - 事務局 井口一世、
 - 委員長 昆凡子、守屋裕之、山田晴久、吉田久満、湯浅修、徳澄範光、長倉一裕、安東隆司、田中克哉、林雄太
- 以上 31名
一林 雄太 H7 営一



2014・2015年度役員 (任期2年)

会長	和田成史	50 営	(株)オービックビジネスコンサルタント	代表取締役社長
副会長	上原洋一	46 院経	上原ネームプレート工業(株)	代表取締役社長
〃	伊藤 守	49 観	(株)毎日コムネット	代表取締役社長
〃	梅田憲司	50 経	三重建材(株)	代表取締役社長
〃	戸井田和彦	50 営	(株)ファルテック	代表取締役社長
最高顧問	玉塚和男	26 経	みずほ証券旧友会	会員
〃	坪野谷雅之	40 経	立教セカンドステージ大学	兼任講師
特別顧問	田谷禎三	42 産	立教大学経営学部	兼任講師
顧問	長谷川正二郎	25 営	損保マチュリティ懇話会	参与
〃	小坂哲瑠	29 営	(有)日比谷松本楼	代表取締役社長
〃	出光謙介	29 経	(社)日・豪・ニュージーランド協会	理事
〃	松崎昭雄	30 経		
〃	村山好弘	32 経	(株)スバンクリートコーポレーション	名誉会長
〃	鈴木紀子	32 経	(株)三鷹婦人会館	代表取締役
〃	田村憲郎	32 経		
〃	倉石 昇	33 経	公益財団法人 キープ協会	理事
〃	井上雅由	34 経	トウイックスジャパン(株)	代表取締役社長
〃	瓦林聖児	34 営	(社)スウェーデン社会研究所	理事長
〃	谷田 権	35 経	(株)ケン・ファイナンス	代表取締役
〃	吉見善夫	35 経	ヨシミ税務会計事務所	所長・税理士
〃	松井幹雄	36 英	(株)ホテルオークラ	社友
〃	中島一彰	41 営	(株)インベストメントインターナショナル	代表取締役
〃	呉 東富	41 営	(株)新橋亭	取締役会長
〃	青木弘光	41 化	(株)青木メタル	代表取締役社長
〃	香取信三	41 営	(株)キノエインターナショナル	代表取締役
法制顧問	木澤克之	49 法	木澤法律事務所	弁護士
〃	花岡光生	53 法	花岡法律事務所	弁護士
監査委員長	北岡修一	55 営	東京メトロポリタン税理士法人	統括代表社員
監査委員	岩田 護	56 営	岩田護税理士事務所	所長・税理士
理事	中島淑夫	43 営	新生紙パルプ商事(株)	社友
〃	鶴見和雄	47 経	公益財団法人 プラン・ジャパン	専務理事
〃	志賀公夫	49 法	志賀工業(株)	代表取締役社長
〃	富澤麻利子	49 教	(株)ラ・ジャッカ	代表取締役
〃	村川和夫	51 法	三和体育製販(株)	代表取締役
〃	平山裕嗣	53 営	ヤヨイ広告企画(株)	代表取締役
〃	戸張則博	54 営	(株)ヴァーネットコーポレーション	代表取締役
〃	杉本隆洋	55 営	(株)アズジェント	代表取締役社長
〃	山口 登	57 経	(株)山口国際税務会計	C.E.O. 税理士
〃	加藤睦夫	57 社	(株)ホロスプランニング	ファイナンシャルプランナー
〃	中島弘人	57 経	(株)東海リアランス	代表取締役社長
〃	藤田 聡	62 営	(株)企業変革創造	代表取締役社長
〃	大屋高志	63 化	フィールズ(株)	代表取締役社長
事務局 長	井口一世	53 営	(株)井口一世	代表取締役
総務委員長	湯浅 修	59 産	(株)ブレーン	代表取締役社長
財務委員長	守屋裕之	60 営	ソニー生命保険(株)	部長、トップ・オブ・ザ・エグゼクティブライフプランナー
研修委員長	田中克哉	H2 法	日本オラクル(株)	FusionMiddleware事業統括本部・担当ディレクター
会報委員長	徳澄範光	62 数	ブレーン・アシスト(株)	代表取締役
スポーツ委員長	長倉一裕	59 法	(株)こだま	代表取締役
拡大委員長	昆 凡子	54 仏	(株)シムコス	会長
活性化委員長	林 雄太(新)	H7 営	林工業(株)	代表取締役社長
産学連携委員長	上小牧政章	H17 院ビ	(株)グレコ	代表取締役
広域ネットワーク委員長	吉田久満(新)	59 営	(株)富士喜	常務取締役
コミュニティ委員長	山田晴久	56 法	(株)山田紙器	代表取締役
対外交渉委員長	安東隆司	H1 社	(株)SMBC 信託銀行	プライベートバンキングディレクター、CFP

会則改訂

クラブのより一層発展、会員増強を目的として、当会会則、「第二章会員 第5条」を次のように変更することが承認されました。

(旧) 本クラブの会員は立教大学校友会の会員で、産業経済界並びに関連専門職業にて活躍している経営者及び管理職並びにその勇退方々とする。

(新) 1) 本クラブの会員は立教大学校友会の会員、もしくは立教中高同窓会、立教小学校同窓会のいずれかの会員で、産業経済界並びに関連専門職業にて活躍している経営者及び管理職並びにその勇退方々とする。
2) 本クラブの会員は暴力団、暴力団員、暴力団関係企業・団体または、その関係者その他反社会的勢力に所属していないものとする。



阿部博史(あべ ひろふみ)氏
日本放送協会 報道局 社会番組部 ディレクター
ご略歴
・2004年 NHK入局 金沢放送局 ディレクター
・2008年 首都圏放送センター(能登半島地震)
・2009年 ニュースウォッチ9(最初の2ヶ月は原発事故担当)
・2011年 報道局 社会番組部 遊軍

●制作に携わった主たる番組

【ドキュメンタリー番組】(長尺のみ列記)

小澤征爾「執念」が手術後に指揮した最後の公演、村上龍 電子書籍革命、瀬戸内寂聴 震災後初めて被災地へ、立川談志 死去に伴い、福島県双葉町 原発事故で町を追われた1年半、にっぽんの現場「老いてこそ麻雀」、にんげんドキュメント「女将三代 加賀屋」、にっぽん紀行「86歳 町の映画監督」、ふるさと発「命の歌声～がんのジャズシンガー～」、ふるさと発「海女として生きる」

【災害系】(NHKスペシャル・クローズアップ現代のみ列記)

「震災ビッグデータ」1と2、「震災データマップ」(クローズアップ現代特番)、東日本震災 同日同時刻中継ドキュメント、能登半島地震(金沢局)、タイの大洪水、各地の竜巻

【ネット/科学系】(クローズアップ現代のみ列記)

ビッグデータ革命、ネット選挙特番、遺伝子診断

【その他】

事業仕分け、オリンパス事件、独立行政法人汚職など。

定期総会に続き、講演会の部が開催されました。日本放送協会(NHK)報道局社会番組部ディレクター・阿部博史様にお越し頂き、『震災ビッグデータ』と題し、データから読み解く『3・11の真実』『復興の鍵』そして『次世代の防災』についてご講演を頂きました。

阿部博史ディレクターは、震災当時NHKのニュース番組『ニュースウォッチ9』のディレクターとして次々と入ってくる大量の映像や情報を分析する必要性を感じ、グーグル社、ツイッター社等の企業や多くの研究者の協力を得て震災時のビッグデータを分析しました。『震災ビッグデータ』という言葉もこの時に生み出された言葉です。

そして、その分析結果は驚くべきものでした。一見意味のない数字の羅列を分かりやすく表示することで意味を与えていく。すると、津波に被災した人たちの意外な行動や帰宅難民の時間を追った行動が明らかになっていったのです。

震災から2年を経過した2013年3月、これらの結果を放送したNHKスペシャルは大きな反響を呼びました。

講演会では阿部博史ディレクターに、この『震災ビッグデータ』の分析にまつわるお話やその結果についてお話し頂きました。

■世界初。All Japanのビッグデータ

かつて、これだけの大量のデータが集まったことは世界のどこにもありませんでした。

SNSでの投稿1億8千万件、カーナビの位置情報の記録140万件、数百万件の携帯電話の位置情報。

震災後、これらの情報をAll Japanで集めるプロジェクトが発足しました。それが『震災ビッグデータプロジェクト』です。2012年秋に発足したこのプロジェクトは、産学官民の英知を集め、東日本大震災を巡るビッグデータを分析、『可視化』することで、それまでは分からなかった震災時の人々の行動を解き明かしました。また、その後の復興の実態を検証し、さらには首都直下型地震に備えることをも目的としています。

■渋滞で命を落とすという事実

カーナビのデータやタクシーの走行記録を分析することで、国がこれまで解明できなかった渋滞の全貌の約83%を解析することができました。

その結果、東日本大震災では延べ1,000kmに及ぶ史上最大の渋滞が発生していたことが分かりました。そして、津波によって17万台もの車が水没してしまいました。これが意味することは、『渋滞で人が命を落とす』という事実です。

この渋滞を首都直下型地震に置き換えて分かることは、火災で多くの命が失われる、という事実です。

地震発生後、渋滞により移動手段が無くなります。しかし渋滞が引き起こす問題はそれだけではありません。渋滞により消防車も来なくなるのです。そのため、火災を止める手段も、そこから逃れる手段も奪われてしまうのです。

■震度5強が境目

では、どの程度の震度で交通は麻痺するのでしょうか？

これもデータを分析することで読み解くことができます。解析の結果、震度5弱までであればほとんどの車は平常運転をしています。しかし、震度5強になったとたん、突然すべての交通は止まってしまうのです。

しかしその一方で、通行できる道が20%程度あったことも分かりました。つまり、これらのことを『知っていること』で、交通麻痺に対する対策と備えを行うことができ、救える命があるのです。

■帰宅難民の行動を読み解く

震災時には帰宅難民が大量に発生しましたが、政府も自衛隊もどこにどれだけの人がいたのか全く把握できませんでした。しかし、携帯電話のデータを解析することで、どこに集中しているかが分かりました。

震災当時、都心では、渋谷のハチ公前に4万人、道玄坂に3万人もの人が集中していました。このため、渋谷駅周辺のパスターミナルは、異常なまでの混雑に陥ったのです。

また、震災当日の3,500万人のTwitterのつぶやきを分析した結果、これらの人たちが、時間を追ってどのように動いたのかを把握することができました。

地震直後のつぶやきは『地震キター!』。1時間後、『怖い』というつぶやきとともに『鉄道が止まっている』という情報が流れ始めました。すると、代替手段での帰宅を考えるつぶやきが多くなります。3時間ほど経つと歩き始めます。そして4時間で休憩、5時間で『寒い』というつぶやきが多くなりました。

このような行動から、どの時点でどのような情報を提供すべきか分かってきます。例えば、地震発生後1~2時間で避難所の情報を出しても意味はなく、この情報が意味を持つのはみんなが歩き始めた3~4時間後ということになります。

■浸水域の人たちの驚くべき行動

津波が襲ってきた地域での行動も解析されていま

す。地震発生時、この地域で人が多かったのは、津波が来たところ(浸水域)であり、都市部ではなかったのです。

そしてこの地域の人たちは、驚くべき行動をとっていたことも分かりました。

地震直後、浸水域からは34%の人が避難して出て行きました。これに対し浸水域に入ってしまった人は4%です。しかし、浸水域から一旦は避難したはずの人たちは、15分後、知人や家族を助けるために浸水域に戻ってしまったのです。さらに、40%の人はわずか10mすら逃げていなかったのです。

この結果、地震発生直後よりも津波が襲ってきた時の方が浸水域での人数は増えていたのです。

■首都直下型地震での火災への対応

阪神大震災の時、同時に50件の火災が発生したために消火活動や救助活動ができなくなりました。このことから、首都直下型地震では通常の消火活動や救助活動を期待することはできません。

このような問題を解決するために、東京都内の約6,000万棟の住宅の24時間×365日の携帯電話のデータを読み解き、5,256億通りの組み合わせから、住民票の人口とは異なる実質の人口の動きを把握し、空白の地域、時間帯を割り出し、救助活動に結びつける試みが行われています。

■企業の復興状況、復興格差を読み解く

被災地の企業の活動を、民間の企業情報等をもとに可視化することで、被災企業の復興状況や復興格差が分かります。

また、被災地の企業の取引関係を可視化することで、震災によって失われた取引関係はどこか、被災企業はどこに動いたのか、そしてその動き方は良かったのか等を読み取ることもできます。その結果、次の地震発生時には、揺れた瞬間から復興を考えることができるようになります。

■震災ビッグデータは『未来への鍵』

このようなデータは、単に復興支援だけではなく日々のビジネスにも活用できます。私達は震災ビッグデータを解析することで、平時にはビジネスに活用し、いざ災害が発生した時には防災データとして活用することができるのです。このように『可視化』された震災ビッグデータには、東日本大震災の『教訓』と『未来への鍵』が満ちているのです。

—吉原 伸隆 H4営—

和田成史氏 藍綬褒章受章お祝いの会



立教経済人クラブ有志発起・主催により、7月1日に東京会館にて、「和田成史氏 藍綬褒章受章お祝いの会」が盛大に行われました。

ご参集の皆様は総勢で100名近くとなり、和気藹々とした食事会の中で、当クラブの会長でもある和田氏の勲章受賞の栄誉を称え、そして喜びを皆で共に分かち合った楽しい時間を過ごしました。

冒頭、有志発起人代表で、当クラブ副会長、そして和田氏の同窓生でもある梅田憲司氏からのご挨拶から始まり、立教学院理事長糸魚川順氏のご挨拶、大先輩長 谷川正二郎氏の乾杯のご発声と続き、これまでの和田氏のご功績に加えて、日頃より和田氏を支え、共に事業、活動に二人三脚で歩まれた弘子夫人のご功績にも触れられ、ご自身の事業のご発展のみならず、公共の利益に対するご貢献、立教内外の様々な活動への支援の結果、今回の受賞に至った背景にあるご苦労や心温まるお話を伺うことが出来ました。

和田氏ご夫妻からのお礼の言葉を頂戴した後、この会を最も盛り上げたのは、現立教大学応援団、チアリーダーの皆さんによる熱きエールでした。ご夫妻をはじめ参加者一同の驚きと歓声に迎えられた若き立教大学生のリードの元で、立教大学応援歌、校歌を会場がひとつになって唄い、励まし合い、そしてクライマックスを迎え、和田氏の勲章受賞の喜びが、皆の新たなパワーになった瞬間を共に感じる素晴らしい会となりました。

最後に有志発起人を代表して、当クラブ副会長で和田氏の同窓生でもある上原洋一氏のご挨拶で会の締めくくりとなりました。

—狩野 英樹 S63化—



ウェルカムパーティー

6月18日(水)、新規会員をお迎えするウェルカムパーティーが、数々のレストラン経営を手掛ける長倉オーナー(スポーツ委員長)のお店「オーグドージュール」にて開催されました。会は素材の味を最大限に引き出した贅沢な料理と、長倉オーナー厳選のワインに、林総務委員長の軽快な司会、守屋財務委員長の絶妙な突っ込みがアクセントとなり、まさしく大盛況でした。

◆ 昆広大委員長の企画が功を奏し、多くの新規会員を迎え入れることが出来ました。◆ 新規会員の皆様にとって、間違いなく良いスタートとなったと思います。私は新入会員当時、井口研修委員長(当時)のもと、朝食勉強会の会場探しに明け方まで、井口先輩と二人で奔走したことが、◆ 今でも一番の思い出になっています。

◆ 新規会員の皆様の自己紹介などを聞きながら、ベニンシュラで初めて開催された朝食勉強会が皆様に「好評」だったことを聞き、うれし涙を流したのが、つい先日のようによみがえってきました。◆ 新しい人との出会いは様々な発見につながり、人間の幅を広げてくれるものだと再認識することが出来、また新たな気持ちで経済人クラブに向き合うきっかけを与えてくれる素晴らしい会でした。

※写真は大学時代写真部だったという黒田様が撮影されました。

—植頭 隆道 H14社—



経済学教育の現場から

池田 毅(経済学科教授)

私の専門は、N. カルドアやM. カレッツキらの議論をその嚆矢とする経済成長と所得分配のマクロ経済学です。現在ではおおまかにポスト・ケインジアン成長と分配の理論とも呼ばれています。今回、この原稿の執筆依頼を受け、何を書くか考えましたが、ここで極端に専門的な話をしてもこの会報に相応しい内容には到底ならないかと思われるので、以下では私の普段の教育活動について雑感を述べていきたいと思います。

さて、私は専門科目の講義として「経済原論B」という科目を担当し、いわゆるミクロ経済学とマクロ経済学の基礎理論を学生に教えています。また昨年度までは、経済学部須永教授とともに正課科目の「インターンシップ」も担当していました。このこともあり、経済人クラブの産学連携委員や多くの会員企業の皆様には大変お世話になりました。この場を借りて、あらためて深く感謝申し上げますとともに、今後とも経済学部が変わらぬご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

ところで、いわゆる理論系科目とキャリア系科目という、一見すると真反対の方向性を持った科目を担当してみて感じるのは、経済学教育の潜在的可能性です。ここで潜在的可能性という表現を使ったのは、経済学の学問的素地をキャリア系科目で実践する内容に結びつける余地がまだまだ相当にあると実感しているからです。言い換えれば、学部の専門科目とキャリア科目との間の良好な相互作用の可能性がまだまだあるのではないか、という自省の念の意味を込めてでもあります。

例えば、経済学部の「インターンシップ」の授業では、夏季休業中の就業体験に入る前の授業期間に、学問的かつ現実経済でも問題となっているようなトピックを取り上げ、ディスカッションを行いますが、その際、受講生の経済学的素養や論理的思考力の訓練不足を痛感することは少なくありません。「インターンシップ」という科目の性質上、ビジネスの現場には関心のある学生が受講してきますが、そうした学生は往々にして実際のビジネスの場で必要とされることは大学での学びとはまったく別のことだ、と前もって断定していることも少なくありません。しかしながら、例えば「論理的に思考する」という能力はどのような仕事にも必要とされるものであり、むしろビジネスという厳しい現場だからこそ「徹底的に合理的・論理的に考える」ことは必要不可欠と言えるでしょう。

他にも、「インターンシップ」の授業では学部OB/OGを中心にビジネスの現場で活躍する社会人を講師としてお招きしますが、昨年度の講師の方の印象に残る言葉として、「なぜか?という問いの答えを得たら、それに続けて、それはなぜか?という問いを5回ぐらい繰り返さない。それぐらい深く考えて初めて学生の思考は社会人並みになる」というものがありました。「インターンシップ」の授業では、夏季休業前にできるだけ問題意識を高

めて就業体験に臨むよう指導していますが、そうした問題意識を高めるために活用できるのが、まさに経済学部の専門科目である、とたびたび学生に注意を促しています。

こうした教員の事前の指導がどれほど功を奏しているかは、いささか不安な面もありますが、実際に「インターンシップ」での就業体験を積んだ学生の多くは、その後、専門科目に対する学びの姿勢を変化させていることも事実です。こうした専門科目とキャリア系科目の望ましい相互作用は、今後の学部教育が模索すべき道の一つであろうと思います。

次に、学問的学びと学生の主体的・能動的学びをより強く意識している科目として、ゼミナールを紹介しておきます。私のゼミでは年間の前半は専門的な書物の輪読・報告・討論といった伝統的なゼミナール形式での授業を行います。後半については、最近では毎年12月に開催される「証券ゼミナール大会」への参加に向けた準備をしています。この大会についての詳細はインターネット上で公開されていますので、ここでは割愛しますが、おおざっぱに言えば、4~5名の学生で1チームを編成し、それぞれのチームが1つのブロック(他大学を含む10チーム程度)で討論を行います。2日間の大会では、それぞれのチームが事前に作成した論文をもとに、プレゼン・討論を行い、それらが総合的に評価されて各ブロックの優秀賞が選ばれます。

ちなみに、私のゼミがこの大会に参加するようになったのは、以前から他のゼミが大会に参加しており、数年前、自分達も参加したい、とゼミ生が言い出したのがきっかけです。もともと私のゼミのような理論系ゼミはそれほど学生に人気のある類ではなく、実際、数年前までのゼミ生達は他の「人気ゼミ」の選考に落ちて、私のゼミに集まってきた学生がほとんどでした。また、そのことについて多くのゼミ生自身も忸怩たる思いを抱えていたのだらうと思います。そうしたゼミ生達から、大会に参加したい、と主体的に要望が挙がったのですから、教員としてはそれに応えない道理はありませんでした。

理論系のゼミの活動としてはいささか邪道になる懸念もありましたが、学生が理論的思考の必要性を実際に感じるという点で、結果的に大会への参加は良い方向につながりました。それは次のような意味においてです。大会に備えて作成する論文のテーマやその主旨については、ブロックごとに予め提示されています。したがって、そのテーマに沿った論文や資料については、まずゼミ生達自身が集めてきます。このご時世ですから、情報を調べる・集めるという点では今の学生は様々なツールを駆使できる環境にあるため、それほど困難は感じません。むしろ学生が直面するのは、そうして集められた大量の資料をうまく整理できないという問題です。



料理に例えれば、学生は材料を大量に準備できるのですが、その材料を調理して一つの料理という作品を創るのに苦慮するのです。材料をいくら大量に並べてみても良い料理=論文にはならないこと、したがって、自分達たちなりの調理法=論点の整理・展開が必要であることを、学生が身をもって体感することになります。この段階までくれば、後は私が直截に理論的ツールを示唆したり、あるいは、何か使える理論はないかもう一度調べなおして来いと指導したりします。結果的にゼミ生達は、理論と現実の間を往復しながら思考を鍛える、という本来あるべきゼミ活動に没頭していくことになります。

こうしたゼミ生達の頑張りによって、ここ2年間は大会でブロック優秀賞をとれるチームも出てきました。こうした成功体験のみならず、チーム作業がうまくいかなかった失敗も含めて、それらはゼミ生同士で共有され、さらには、上級生から下級生へのアドバイスや指導は、単に受動的にチーム作業に携わるのではなく、広い意味でのリーダーシップの涵養にもつながっています。こうしたゼミ活動内での良い循環が生まれつつある状況から、私自身も今後のゼミ生達の成長を大いに期待しています。

最後に、上級生から下級生へのアドバイスという文脈と関連して、現在、経済学部ではキャリア教育運営委員会を中心に、学部OB/OGである社会人の方々を現役の学部生のキャリア教育に結びつけるような仕掛けをいくつか企画しています。そうした企画が実った暁には、経済人クラブの会員の皆様方からも多くのご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



池田 毅氏 プロフィール
1968年、宮崎県生まれ。
博士(経済学)。

九州大学専任講師、阪南大学准教授、立教大学准教授を経て、2012年より立教大学経済学部教授。

主要著書に『経済成長と所得分配』(日本経済評論社、2006年)がある。

一品川 高穂 H8経一



立教発 ▶ 若い力! ヘッジファンド証券

ヘッジファンド証券を設立して4年になりますが、これまで私たちが行ってきたサービスをまとめるという目的と、ヘッジファンドの存在を広く世間を知って欲しい、またヘッジファンドというものを正しく理解して欲しいという想いで、「ヘッジファンド×海外不動産で組む 鉄壁の資産防衛ポートフォリオ」を執筆しました。

世界的な金融危機が起こったり、相場が乱高下するたびに、主犯はヘッジファンドであるかのように報道するメディアがあるため、世間の目からみれば、ヘッジファンドは悪者に映っていると思います。またハイリスクというイメージもあるかもしれません。

まずはこのようなイメージをなんとか払拭したいと思っています。実際に私たちがおすすめする「和製ヘッジファンド」はとても堅実な運用をしています。「和製ヘッジファンド」の多くは「マーケット・ニュートラル運用」という手法で運用しています。これは空売りと買いとを組み合わせるマーケットに対して常に「中立」を保つ運用手法なので、マーケットの

上下にあまり影響されず、安定的に資産を運用する投資戦略ということができます。

今はインターネットを経由して誰でも手軽に資産運用を行うことができる時代になりましたし、コストもほとんどかかりません。しかしながら、プロばかりの世界に素人が飛び込んでいくようなものですので、短期間の勝負なら勝てる場合もあるかもしれませんが、長期間にわたって勝ち続けることができるかという、難しいと思います。ですから、ある程度の手数料を払ってもプロに運用を任せるべきだと思います。

これからも、富裕層に限らず、資産運用を行っている、またはこれから検討している全ての方々に、ヘッジファンドを正しく理解していただき、株式市場に左右されず、中長期にわたって安定的な運用を行っていくことの重要性を訴えていきたいと思っています。

—植頭 隆道 H14社—



当社HP <http://hedgefund-sec.com/> フェイスブックページ <https://www.facebook.com/teppeki>

連載

グローバルリーダーへの道 (第6回)

グローバル人材と異文化適応能力

今回はグローバル人材と関連の深い能力について考えていきたいと思います。異文化適応能力とは英語を中心とする外国語によるコミュニケーション能力のみならず、バックボーンとしての宗教観や仕事観等の違いをきちんと受け止めた上での適応能力です。

文化や商習慣の違いを理解する方法としては、その土地にある一定期間(出来れば1年以上)住むことが一番でしょう。頭ではなく、肌感覚での理解が本来求められるのです。弊社はグローバル人材育成のための評価ツールである「グローバルコンピテンシーテスト」という能力評価テストを展開しておりますが、この異文化適応能力も数値化しています。比較的、帰国子

女の方や長期の海外赴任経験のある方が高い得点傾向にあります。

今、大手商社やメーカー等で若手研修の一環として、3か月~1年程度、海外で武者修行をされていますが、この試みはこの能力を高める上で効果的と言えましょう。

もう1点、日本で能力が高く評価されている人が必ずしも海外で結果を出すとは限らないものです。テスト結果の分析によれば、海外赴任向きのパーソナリティーも無視できません。弊社では、グローバル人材としての成功モデルを策定していますが、パーソナリティーとしては一定レベルの受容性(あるがままに受け入れる性格特性)と論理性(筋道立ててわかりやすく組立てる性格特性)が必要であると考えています。

その国々の環境をありのまま受け入れ、分りやすく論理的に思考していく能力があるかが求められるのです。言わずもがな、暗黙の了解は日本のローカルルールです。グローバル社会において、まずは、「沈黙は金」ではなく、「沈黙は無価値である」という思考様式に転換することが必要でしょう。

—藤田 聡 S62営—

ご質問・ご意見・ご感想があれば、fujita@v-change.co.jpまで。
蛇足ですが、弊社の中小・ベンチャー企業向け社員力向上支援サービス「人材開発研究所」が先日、日経産業新聞のトップ面で取り上げられました。「中小企業の組織活性化から日本を元気に!」で邁進しております。

ご関心があれば、下記まで。
www.v-change.co.jp/jinzai_kaihatsu

徒然なるままに……

6月にイタリアのレッジョ エミリア市に行ってきました。この街で行われている幼児の教育・保育が今世界的に注目されています。教育の手法はもちろん興味深いものですが、その理念をご紹介します。日本の福祉的感覚でいえば「行政は私たち(子ども)のために何をしてくれるのか」となりますが、この街ではまず、「子どもはこの街のために何をしたのか。」それから「子どものために街は何ができるのか」となります。1946年以降、行政、市民・保護者、幼稚園・保育園が一体と

なって子どもの教育を考えてきた結果、出生率はイタリアの中でトップクラス、犯罪発生率は最低クラスを維持し、0~6歳児が人口の中で占める割合はイタリア平均を大きく上回る6%を維持しています。「子どもの数=街の財産」「街の将来のために子どもにいいものを与えたい」「美しさの中にあることが教育」という大人の思いが世界から注目される子どもの教育環境を生み出しています。経済対策のために、ただ保育園の数だけ増やし続ける前に、まず子どもの教育環境について考えてみる時間がほしいですね。

—田中 善之 S57法・H22院ビ—

立教経済人クラブ 委員会より

総務委員会

当クラブは、今期より新たに立教小学校同窓会、立教中高同窓会の会員の方々も入会することが可能になり、さらに様々な業界・業種の方々も会員になられ、ますます活況を呈していくことでしょう。

総務委員会が主催する定期総会と新春名刺交換会は、会員相互の親睦を深める場として、大きな役割を担っております。ここでは総務委員会を中心となって、立教らしい肩肘張らない雰囲気を演出しながら、楽

しく有意義なコミュニケーションの場を作っていきたいと考えております。

また今期の会員名簿は、会員数増加によるページ数アップ、さらにデザインや構成などを改訂する予定ですので、製作費用がアップすると思われる。会員の皆様には、是非、広告掲載のご協力をお願いしたいと思っております。何卒よろしくお願い申し上げます。

—湯浅 修 S59産—

スポーツ委員会

スポーツ委員長の長倉 一裕 です。59年法学部法学科卒です。スポーツ委員長の活動としましては、7月と12月に年2回ゴルフの会を開催しております。

7月は埼玉県の東京ゴルフ倶楽部にて開催させて頂いております。関東屈指の名門コースにもかかわらず、たいへんリーズナブルな料金でご

参加頂けます。

12月は毎回違いまして、様々なコースでの開催となります。とても和やかで楽しい会です。みなさまのご参加をお待ちしております。

—長倉 一裕 S59法—

活性化委員会

活性化委員長のH7年経営卒、林雄太です。活性化委員会はその名の通り、会員相互交流の活性化を主目的に活動している委員会です。

主に立教経済人クラブ主会合であるクリスマスパーティ、有名店・繁盛店で懇親を深めるグルメ会、新入会員様と既会員様を繋ぐウェルカム

パーティを担当します。

皆様に喜んでいただける企画を続けていきますのでよろしくお願いいたします。

—林 雄太 H7営—

会報委員会

会報委員会としましては、アナログ(紙)、デジタル(ホームページ、facebook)を融合させて、会員増強のサポートをしていきたいと考えております。具体的には、経済人クラブの名の通り、会員の経済活動の触媒になれるよう、若い会員が積極的に会に参加したくなるよう、情報提供の

場作りに注力したいと思っております。皆さまからの積極的な出稿、投稿をお待ちしております。

投稿先(事務局): keizaijin@grp.rikkyo.ne.jp

—徳澄 範光 S62数—

産学連携委員会

産学連携委員の上小牧です。早いもので、3年目を迎えました。日ごろ、特にインターンシップで学生を迎え入れて頂いている企業様には大変お世話になっています。この紙面をお借りしまして、お礼を申し上げます。そして、立教大学のOB企業にインターンシップで働けることは、学生にとっても安心ですし、心強いことかと思っております。3年目を迎え、今年は経

済学部以外の学部とのコミュニケーションが取れればと思っています。会員の皆様も何か大学側に対してコンタクトを取ってみたいというリクエストは御座ませんか?全てお答えできるかどうかはわかりませんが、そのような声も是非聞いてみたいと思っています。宜しくお願いします。

—上小牧政章 H17院ビ—

コミュニティー委員会

コミュニティー委員長を拝命しました山田晴久です。新設の委員会ですの和田会長の方針のもと、皆様のご意見を伺いながら

①会員相互のネットワークの強化

②会員サービスの向上

を目指して施策を実施してまいります。宜しくお願いします。

—山田 晴久 S56法—

対外交流委員会

対外交流委員会では、立教経済人クラブのみならず、立教他団体や他大学の経済人、プロフェッショナルとの交流・親睦を図る目的で活動を行っております。

本年も9月に「経済人交流ゴルフ」と題してゴルフコンペを開催致します。上場企業・店頭公開企業を含む、立教大学を代表する経営者の方々をホスト役に、他大学の経済人をお迎えし「交流と親睦」を目的としたイベントも今年で4回目を迎えます。

2013年は台風直撃でゴルフ場クローズとなり残念ながら中止とさせて頂きました。過去のコンペでは、東京大学、京都大学、慶應義塾大学、学

習院大学などのOBをはじめとした、経済人の方々との集いを東京ゴルフ倶楽部、よみうりゴルフ倶楽部という名門ゴルフクラブにて行って参りました。またゴルフ後の懇親会では参加者を中心に、沢山の賞品のご提供を賜り毎回大いに盛り上がりしております。

従来、立教大学卒業生だけであった経済人クラブの入会資格が立教高校、中学、小学校卒業生の方もご入会頂ける形に変更になった本年、更に沢山の皆様との交流の機会の一助を担って参りたいと思っております。今後とも皆様の温かいご支援、ご協力をお願い申し上げます。

—安東 隆司 H1社—

広域ネットワーク委員会

はじめまして、昭和59年経済学部経営学科卒業の吉田久満と申します。この度、新しく設立されました「広域ネットワーク委員会」をお預かりするご縁を頂くことになりました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて立教経済人クラブは設立以、主に首都圏を中心とした会員の皆様で構成及び活動をしてまいりました。そのような中、「新たな会員の誘致活動として、またクラブの新たな飛躍につながる一計として、首都圏以外で活躍されている校友の方々にも幅広く経済人クラブを普及していきたい。」そのような理念のもと新しい委員会は立ち上げられました。

とは申せ、新たな試みであり、その道のりは険しいと思っております。しかしながら他の委員会と連携しつつ、また校友会および地域立教会の方々との連携が模索できれば好機もあると考えております。

つきましては、多くの諸先輩方にお知恵を拝借し、ご指導・ご教示をいただきながら一步一步前へと進んでまいりたいと思っております。なにぶん役者不足ではございますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

—吉田 久満 S59営—

グルメ会

平成26年3月19日、グルメ会が開催されました。お店は愛宕グリーンヒルズにあります、心技体 うるふ です。

焼き河豚 とすっぽん鍋がお奨めのお洒落なお店です。まずはお通し、セロリのサラダなどヘルシーなスタートです。そしていよいよ焼きフグです。ネギ焼き、ニンニク焼き、コチュジャン焼きの3種の味付けで楽しめます。香ばしく、しっとりほっくりでとても美味しいものでした。しかもかわいい仲居さんが焼いてくれるのです(^_^)v

メのすっぽん鍋が出来るまでゲストの方、初参加の方からご挨拶を頂き、楽しいひと時を共有しました。

今回は12名のご参加を頂きました。次回は9月の予定です。皆様のご参加をお待ちしております。

—長倉 一裕 S59法—



新しく会員になられた方々
(敬称略)

青木 慶一郎

平成1(1989)営
JKホールディングス(株)
代表取締役社長
〒136-8405 江東区新木場1-7-22
新木場タワー 17F
TEL:03-5534-3818
FAX:03-5534-3844
E-Mail:k_aoki@jkhd.co.jp
業種:(木材・建材)卸売業

稲川 善也

昭和56(1981)法
(株)日出
代表取締役社長
〒179-0081 練馬区北町5-17-5
TEL:03-3937-1344
FAX:03-3933-3730
E-Mail:y-inagawa@hinode-japan.co.jp
業種:製造業(光学用樹脂レンズ製造・金属超微細加工)

大山 浩一

立教高 昭和56(1981)
日東金属工業(株)
代表取締役社長
〒340-0811 埼玉県八潮市二丁目358
TEL:048-996-4221
FAX:048-996-8781
E-Mail:ohyama@nitto-kinzok.co.jp
業種:ステンレス製工業容器製造業

奥野 仁己

立教高 昭和43(1968)
(株)奥野設計
代表取締役会長
〒164-0003 中野区東中野3-20-10
TEL:03-5348-5771
FAX:03-5348-5790
E-Mail:nyc@okuno-associates.com
業種:建築設計・監理 総合事務所

菊川 泰宏

昭和56(1981)営
兼松エレクトロニクス(株)
代表取締役社長
〒104-8338 中央区京橋2-17-5
TEL:03-5250-6313
FAX:03-5250-6856
E-Mail:kikukawa@kel.co.jp
業種:情報・通信・販売サービス会社

齊藤 幸代

昭和61(1986)史
オリックス(株)
営業担当部 担当部長
〒105-6135 港区浜松町2-4-1
世界貿易センタービル
TEL:03-3435-3077
FAX:03-3435-3173
E-Mail:yukiyo_saito@orix.co.jp
業種:金融サービス業

佐藤 京子

昭和46(1971)営
大和ビジネスフォーム(株) 光和産業(株)
代表取締役
〒104-0031 中央区京橋2丁目12番4号
TEL:03-3564-0268
FAX:03-3563-2808
業種:不動産賃貸業・人材紹介

鈴木 弘昭

平成1(1989)史
Shangri-La Hotels Japan(株)
セールス ディレクター
〒100-8283 千代田区丸の内1-8-3
丸の内トラストタワー本館
TEL:03-6739-7550
FAX:03-6739-7551
E-Mail:hiroaki.suzuki@shangri-la.com
業種:ホテル業

寺原 きよみ

昭和61(1986)法
(株)クレッシェンド
代表取締役社長
〒104-0061 中央区銀座2-12-12
たちばなやビル3F
TEL:03-5843-4325
E-Mail:kiyomi.crescend@nifty.com
業種:人材育成研修の企画、実施。人事コンサルティング

中谷 公巳

平成10(1998)史
アクシスインターナショナル(株)
代表取締役社長
〒170-0013 豊島区東池袋1-17-3-907
TEL:03-5396-2393
FAX:03-5396-2397
E-Mail:hiromi.nakatani@axis-ing.com
業種:ITサービス

二瓶 豊

平成10(1998)法
(株)Casval Account
代表取締役
〒104-8238 中央区銀座5-15-1 SP703
TEL:03-6228-4486
FAX:050-3488-8461
E-Mail:nihei@casval-account.com
業種:会計コンサルタント

松江 芳夫

昭和62(1987)産
(株)ビジネスブレイン太田昭和
グローバルソリューション本部
本部長(COO)
〒105-0003 港区西新橋1-2-9 日比谷セントラルビル
TEL:03-3507-1313
FAX:03-3507-1311
業種:コンサルティング

丸田 真功

平成19(2007)会計ファ
SCSK(株)
チームリーダー
〒134-0091 江戸川区船堀3-5-14
TEL:03-6663-5291
FAX:03-5674-4038
E-Mail:masanori.maruta@scsk.jp
業種:情報・通信業

横塚 雅章

昭和62(1987)経
AMWコンサルティング(株)
代表取締役社長
〒132-0035 江戸川区平井2-20-15太陽ビル
TEL:03-5609-2944
FAX:03-5609-2944
E-Mail:m-yokotsuka@amwconsulting.co.jp
業種:経営コンサルティングサービス業

吉原 恵太郎

平成11(1999)法
むくの木法律事務所
弁護士
〒104-0033 中央区新川1-2-8第5山京ビル8階
TEL:03-3551-1590
FAX:03-3551-1591
E-Mail:yoshihara@yoshiharalaw.com
業種:弁護士業務(主に一般民事、刑事、家事を担当)

2014年度 事業計画書

2014年 8月	経済学部インターンシップ支援	
2014年 9月 15日	他団体交流ゴルフ	よみうりGC (募集)
2014年 9月 17日	グルメ会	場所未定 (募集)
2014年 10月 15日	朝食勉強会	場所未定 (募集)
2014年 11月 19日	ウェルカムナイト	場所未定 (募集)
2014年 12月 7日	第66回ゴルフ会	場所未定 (募集)
2014年 12月 9日	クリスマスパーティー	場所未定 (募集)
2015年 1月 28日	新春名刺交換会	日比谷松本楼 (募集)
2015年 3月 6日	朝食勉強会	場所未定 (募集)
2015年 3月 18日	グルメ会	場所未定 (募集)

編集後記

ワールドカップサッカー、日本は力を出し切れずに予選敗退。その期間中にウインブルドンテニス、錦織選手がベスト16に。ドイツとアルゼンチンの名勝負で幕を閉じたサッカーがようやく終了と思いきや、全英オープンゴルフ。スポーツ好きの私としては眠れない日々が続きます。

周知の通り、2019年ワールドカップラグビー、2020年東京オリンピックとビッグイベントが日本で開催されます。日本のおもてなし精神に代表されるソフト面と、技術力のハード面との総合力で臨めば、成功間違いなしです。世界中の人々が、日本はなんて素晴らしい国なんだと実感し、日本人も自信を持つでしょう。

あらためて、スポーツが与える影響の大きさを感じます。

その底辺を支える、学生スポーツ、頑張れ立教健児!

—神津 港人 H4営—



Facebookで経済人クラブのグループに参加しよう!
セミナーや新製品の告知、交流の場としてドシドシ投稿して下さい。

立教経済人クラブ ウェブサイト 立教経済人クラブでの、過去の行事や活動はウェブサイトでご覧頂けます。
<http://www.r-keizaijin.net>